

製品名: JNK1/2/3 (リン酸化 Tyr185) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04910**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	46+54kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPK8/9/10 MAPK8; JNK1; PRKM8; SAPK1; SAPK1C; Mitogen-activated protein kinase 8; MAP kinase 8;
別名	MAPK 8; JNK-46; Stress-activated protein kinase 1c; SAPK1c; Stress-activated protein kinase JNK1; c-Jun N-terminal kinase 1; MAPK9; JNK2; PRKM9; SAPK1A; Mi
遺伝子 ID	5599/5601/5602
SwissProt ID	P45983/P45984/P53779
免疫原	抗血清は、ヒト SAPK/JNK 由来の Tyr185 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

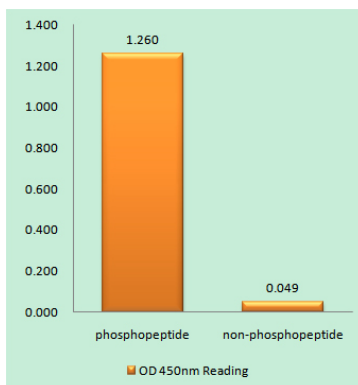
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MAPキナーゼファミリーのメンバーです。MAPキナーゼは、複数の生化学的シグナルの統合点として機能し、増殖、分化、転写調節、発達など、さまざまな細胞プロセスに関与しています。このキナーゼは、さまざまな細胞刺激によって活性化され、特定の転写因子を標的とすることで、細胞刺激に応答した前初期遺伝子発現を媒介します。腫瘍壊死因子 α (TNF- α) によるこのキナーゼの活性化は、TNF- α 誘導性アポトーシスに必要であることがわかっています。このキナーゼは、紫外線誘導性アポトーシスにも関与しており、これはシトクロムcを介した細胞死経路に関連すると考えられています。この遺伝子のマウス対応遺伝子の研究では、このキナーゼがT細胞の増殖、アポトーシス、および分化に重要な役割を果たすことが示唆されています。いくつかの選択的スプライシング活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。ドメイン: TXYモチーフには、MAPキナーゼを活性化するスレオニンおよびチロシン残基が含まれています。酵素制御: MAP2K4およびMAP2K7という2つの二重特異性キナーゼのいずれかによるスレオニンおよびチロシンリン酸化によって活性化されます。DUSP1などの二重特異性ホスファターゼによって阻害されます。機能: JNK1アイソフォームはそれぞれ異なる結合パターンを示します。 β -1はc-Junに優先的に結合しますが、 α -1、 α -2、 β -2はc-JunとATF2の両方に同程度に低いレベルで結合します。しかし、結合とリン酸化の間には相関関係はなく、リン酸化はすべてのアイソフォームでほぼ同じ効率で達成されます。機能:環境ストレスや炎症性サイトカインによる活性化に応答して、JUN、JDP2、ATF2などのAP-1の構成要素である多くの転写因子をリン酸化することで、AP-1の転写活性を制御します。T細胞では、JNK1とJNK2は、Tヘルパー細胞からTh1細胞への極性分化に必要です(類似性による)。熱ショック因子タンパク質4(HSF4)をリン酸化します。オンライン情報:C-Jun N末端キナーゼエントリ,PTM:Thr-183とTyr-185が二重にリン酸化され、酵素を活性化します。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。MAPキナーゼサブファミリー。類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット:少なくとも4つの足場タンパク質、MAPK8IP1/JIP-1、MAPK8IP2/JIP-2、MAPK8IP3/JIP-3/JSAP1、およびSPAG9/MAPK8IP4/JIP-4に結合します。これらのタンパク質は、JNKシグナル伝達経路の他の構成要素にも結合します。TP53およびWWOXと相互作用します。JAMPと相互作用します。MAPK8IP1およびRGNEFと複合体を形成します(類似性による)。NFATC4と相互作用します。、

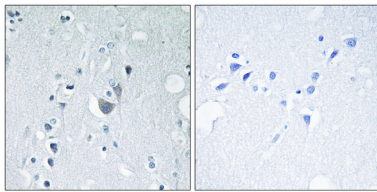
研究分野

Toll_Like; 細胞増殖; 幹細胞経路; インスリン受容体; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; ErbB/HER; B細胞受容体; SAPK_JNK; WNT; WNT-T細胞; β -カテニン

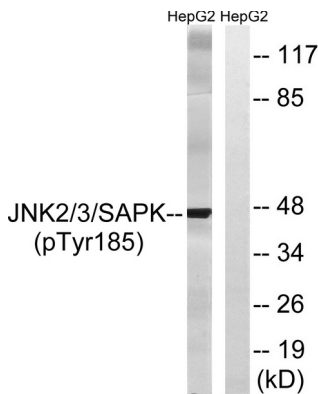
画像データ



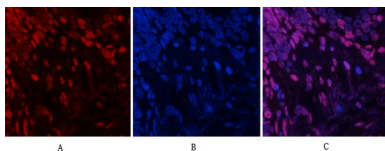
SAPK/JNK (リン酸化Tyr185) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化ELISA)



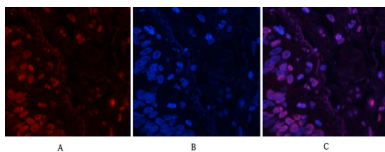
SAPK/JNK (リン酸化 Tyr185) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



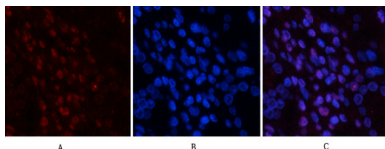
ノコダゾール 1 μ g/ml で 16 時間処理した HepG2 細胞のライセートを、SAPK/JNK (リン酸化 Tyr185) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンがリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



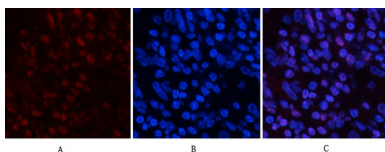
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, JNK1/2/3 (リン酸化 Tyr185) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



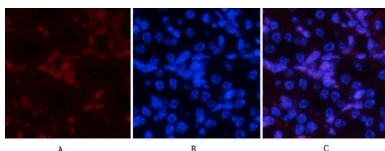
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, JNK1/2/3 (リン酸化 Tyr185) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



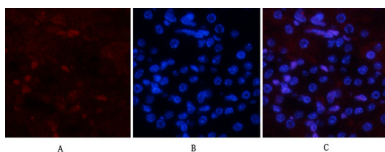
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, JNK1/2/3 (リン酸化 Tyr185) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, JNK1/2/3 (リン酸化 Tyr185) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス腎臓胃組織の免疫蛍光染色。1, JNK1/2/3 (リン酸化 Tyr185) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



マウス腎臓胃組織の免疫蛍光染色。1, JNK1/2/3 (リン酸化 Tyr185) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。